

「ひたすら愛に生きるために」愛と自由に生きる⑧

出エジプト記20章1～17節



第七は「姦淫してはならない」という戒めです。「姦淫」とは自分の夫や妻以外の人と肉体の関係を持つことです。私たちは、この戒めが時代遅れのように扱われ不倫が美しく語られる社会で、これをどのように受けとめるのでしょうか。イエス様が「安息日は人のために設けられたのです。人が安息日のために造られたものではありません」と言われたように、ただ姦淫をしなければいいということではなく、私たちの幸せのための指針として受けとめることが大切です。

① 夫と妻に与えられた人格的な交わり

“また、神である主は言われた。「人がひとりであるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」…それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。そのとき、人とその妻はふたりとも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。” 創世記2:18～24

② 愛に生きるために

“「姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。隣人のものを欲してはならない」という戒め、またほかのどんな戒めであっても、それらは、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」ということばに要約されるからです。” 0-マ13:9

“『姦淫してはならない』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。情欲を抱いて女を見る者はだれでも、心の中ですでに姦淫を犯したのです。” マ15:28

③ 自由へと召されたものとして生きよう

“兄弟たち。あなたがたは自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕え合いなさい。律法全体は、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」という一つのことばで全うされるのです。” ガラ5:13-14

“あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだはキリストのからだの一部なのです。それなのに、キリストのからだの一部を取って、遊女のからだの一部とするのですか。そんなことがあってはなりません。…あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。” 1コリ6:15,19

<話し合ってみましょう>

- ・どこまで許されて、どこまで禁じられているのかというような議論になりがちな私たちですが、神がこれを禁じられたのはなぜだと思いますか。この戒めが「殺してはならない」と「盗んではならない」という戒めの間におかれていることをふまえて考えてみましょう。